

2-B オープンサイエンスの  
負の側面は?

陀安さん, 小村さん, 浅野  
西村さん, 奥田さん  
(GISと社会) (栄養循環10)

---

うまくいかない点を知る  
データを出す側) 2つの論点  
データを使う側)

出したい / 出したくない

使いたい / 使いたくない

奥田さん: 社会と一緒  
どう作るか  
データ

フェーズI もう少しオープンに(研)

フェーズII 社会と共働

- 完成形を出す
- 生データを出す

まずは  
このレベルから

Open化の

負の側面
• 学会が成立しなくなる(商業誌の問題)
• 投稿側が支払う必要
→ 小さい国内学会は成立しない

- 研究費を食う
- 刊行の問題
- 社会がどうとらえるか

2. データの切り方と不統一

③

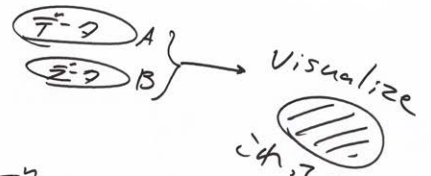
社会へのつながりを醸成する必要

×データ・部分的解釈

↓  
・専門的知識必要

○異なる研究者間でもおこるのでは?

研究者は  
これをする



○データの中身

美しく見せることかウケる  
(センセーショナル, わかりやすい)

# 解決策は?

✓ それと善/悪を誰が判断する?

✓ 月にデータをみんがむと  
反論できる

✓ データのクオリティと解釈の  
質(レベル). 2つの問題

✓ 専門家 = データ保持の  
時代がおわる、新しい専門家

# ④ 図書館

⑤

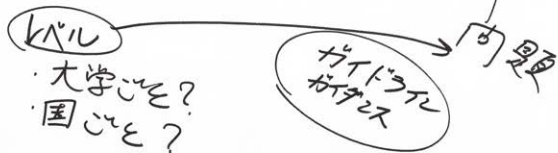
○来るころは扱わない

○Xデータ (タイタリ) に苦勞がかさ

○論文については品数は著者が担当

○データについては、プライバシー侵害などに注意

○使う側への権利



○フルオープンじゃない分野

○社会的合意によって基準は変わりうる

例) Suica のデータ → 反対意見

○「自分のデータが公開される事実」に反対する

○自分の公開するデータの人はいる

自分のデータ

まとめ

研究者視点 学術  
・データクオリティ

↓  
生データレベル

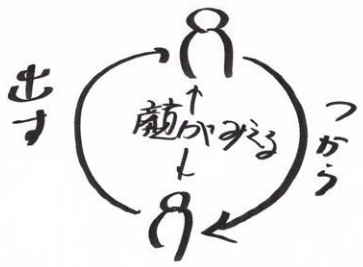
どう出す? ) 研究者  
どうつかう?  
市民の反応  
(他人が出す物  
のロイヤ?

アンケート

そもそも調査は決まるの?

①チェックするレベル  
大学図書館の現在のチェック項目  
→ガイドライン 教育が必要

# 「ホップ」の規模の大きさ



フルではない  
木ホップ



戻り  
つから  
フルホップ

2-B

⑧

◎サイエンスが本分である  
意義は?

◎従前の学会が基準だった時代  
がおわる (SNS 時代)

◎データ公開だけでなく「どうよむか」  
も含めてオープンサイエンス。  
使い方もオープン。

◎コントロールが利かなくなる